

平成29年3月

最幸の商品は働いている社員の姿

(やりがいと生きがい)

古田土会計では、「やりがいとは、やったがいのあるもの、自分のため、具体的には給与賞与、地位、自分の成長等。生きがいとは、使命感、世のため、人のため、幸せな人生、喜ばれる、感謝される、志の同じ仲間を持つこと」と定義しています。

社員はやりがいを求めて、給与、賞与が高くなるように努力し、より高い地位になるように努力します。会社は社員がやりがいのある会社であると思ってくれるように成長し、高い給与、賞与を払い、多くの役職を用意します。しかし、やりがいばかり求める社員は自分のためだけに働くように存じます。自分が成長することだけに満足感を感じます。

生きがいは、自分のためではなく、世のため、人のため、人様から喜ばれたい、感謝されたいすることによって、感じるように存じます。しかし、生きがいばかりを求めても、給与賞与が少ないとその仕事は続けられません。人が人として成長するためには、会社を生きがいとやりがいのある会社にしなければなりませんと思っております。

2月27日に日経BP社より「小さな会社の財務コレがサ！」という本を出版しました。「はじめに」というところで、我が社の若い女子社員がプライベートな旅行で知り合ったご夫婦に自分の会社のことを熱意を込めて話をしてもて感心されて興味を持ったので我が社を訪問してくれたこと、また我が社の現飯島常務がその社長さんの質問に経営計画書を用いて答えて「お客様は経営計画書の内容とそれを使いこなす飯島さんの姿に感動されていふしや、お客様に満足していただくのは飯島さんのおかげです」という中神希子さんの日報のことを書きました。夏休みの個人的な旅行で会社のよいところを熱心に説明する中神さんや古田土会計のことを経営計画書を使って説明し、お客様に感動していただいた飯島さんは、やりがいだけを求めて働いていないことは明らかです。お客様に自分達の会社のことを知ってもらいたい、伝えたいという思いが熱意となって相手方に伝わり感動していただいたのです。中神さんも飯島さんも生きがいを持っていて働いているのです。会社の最幸の商品はまさに働いてくれている社員の姿です。「最高ではなく最幸」と書いたのは、会社と社員個人の最高ではなくお客様、社会に幸せをもたらす働き方が理想だからです。社長も社員も、「働いている社員の姿が最幸の商品ですと自信を持ってお客様や社会に言われる会社に存りたいものです。そのためには、「最幸の商品は働いている社員の姿です」と毎日意識し、言葉に出し、全社員で確認しあうことです。繰り返しの力次第には全社員に浸透します。私達古田土会計はこのような言葉を外へ向けて堂々と伝えるレベルではありませんが、中神さんや飯島さんみたいな社員が1人1人と増えていけば、やりがいと生きがいのある会社になると信じています。社員の皆様よろしくお願ひします。古田土会計の経営計画書には、会社の方針のみではなく、人としての生き方、人間性を高めるためにどのような考え、行動をすればよいのかも細かく、しっかりと書いてあります。社員の皆様が、会社の使命感と経営理念のもとに全社員一丸体制で仕事をすれば、お客様から見ても古田土会計グループの社員の働いている姿が感動していただけるはずですよ。お客様は「どうしてそのおな働き方ができるのですか」と聞かれたら、「うちの最幸の商品は働いている社員の姿ですが」と答える会社に存じます。

古田土 満